

1. 校正結果

[重錘形圧力天びん]

重錘の組み合わせ P(No. V-1366), No. 51523	校正 圧力値 [kPa]	真空計 の読み [Pa]
P, 1, 11, 13	679.288	0.6
P, 1, 7, 8, 10, 11, 14	1718.324	0.7
P, 1, 2, 7, 8, 11	2757.397	0.6
P, 1~3, 7, 9, 12	3784.807	0.7
P, 1~4, 7, 10, 13	4823.873	0.8
P, 1~5, 7	5851.24	0.9
P, 1~6, 8, 10~12	6995.38	1.0

校正圧力値の不確かさは、0.0038 %である。

この値は、包含係数 $k=2$ とした拡張不確かさであり、約 95 %の信頼の水準をもつと推定される区間を与える。

備考

- 1) 校正は、東京航空計器株式会社標準器と比較して行った。
- 2) 測定圧力は、気体絶対圧力であり、窒素を圧力媒体とした。
- 3) 気体絶対圧力は、ゲージ圧力に大気圧を加える方式による。
- 4) 重錘の組み合わせには常にピストン P(No. V-1366)が含まれる。
重錘番号は組番号 No. 51523 の組重錘であり、個別の識別番号を記載した。
- 5) 校正にあたっては、被校正圧力標準器の参照圧力を真空排気システム (ALCATEL 製 /GSBBDASVOFA1/2D2589) で真空排気し、排気開始から 20 分後以降に、十分の真空 (1.0 Pa 以下) が得られていることを真空計で確かめながら測定を行った。その測定値を真空計の読みとして校正結果に示した。
- 6) 上記の校正圧力値は、標準重力加速度 (9.80665 m/s^2) の場所において、被校正圧力標準器の付属温度計の表示値が $23.0 \text{ }^\circ\text{C}$ の場合に、被校正圧力標準器の本体に示された基準面におけるものである。昇圧 3 回の平均から算出した。

2. 校正実施条件

温度 $23.0 \text{ }^\circ\text{C} \pm 0.0 \text{ }^\circ\text{C}$ 、 相対湿度 $50 \% \pm 0 \%$ 、 大気圧 $100.0 \text{ kPa} \pm 0.0 \text{ kPa}$

3. 使用した標準器等

	型式/器物番号	校正証明書番号
重錘形圧力天びん	2465A-754 / 71986 (C-468)	091014
重錘形圧力天びん	2465A-754 / 71986 (V-1435)	第095239号
デジタル気圧計	PTB220 / X3010009	102012

-----以上-----